まちの話題

Machi no Wadai

市内で行われたイベントや行事、まちの話題を写真と一緒に紹介します。
また、みよし市ホームページでは「Topics（まちの話題）」と「市政番組『みよしTODAY』動画配信」でイベントや行事の様子を紹介しています。URL http://www.city.aichi-miyoshi.lg.jp/

ゲームで楽しく認知症予防

認知症カフェ「オリーブ」オープン

認知症の症状の有無を問わず誰もが気軽に集い、認知症予防に効果のあるゲームなどを一緒に楽しみながら交流や情報交換のできる場として、認知症の予防だけでなく地域のにぎわいづくりにも活用してもらおうと7月17日、福谷町内に認知症カフェ「オリーブ」がオープンしました。オープニングセレモニーでは、社会福祉法人翔寿会（しょうじゅかい）理事長の鈴木睦子（すずきむつこ）さんが「このカフェが皆さんにとって安心できる居場所となり、介護する人や専門職の皆さんとの出会いの場になるように期待しています」とあいさつ。その後、この日カフェを訪れた地域のお年寄り12人が4つのテーブルに分かれ、翔寿会や市役所高齢福祉課の職員と一緒に認知症予防に効果のあるトランプを使ったゲーム「51（ごじゅういち）」に挑戦。各テーブルでは、他の人よりも早くカードの合計を51にしようと、真剣な表情でカードを見つめたり職員と楽しそうに相談したりする姿が見られました。

感謝の気持ちをパドルに込めて

愛知県中学校カヌー大会

県内中学校のカヌー部員同士の親睦を図るとともに、青少年の健全育成につなげてもらおうと7月12日、第21回愛知県中学校カヌー大会が三好池カヌー競技場で行われました。この日は、市内外の中学校から、合わせて92人のカヌー部員が参加。開会式では、岡崎市立新香山(しんかやま)中学校の中村尚平(なかむらしょうへい)くんと勝上夢可(かつうえゆめか)さんが「3年生にとって三好池でこぐことは最後となりました。私たちを支えてくれた皆さんに感謝の気持ちを込め、最後の一パドルまで全力でこぎ切ることを誓います」と力強く選手宣誓をしました。その後、それぞれの種目に分かれて競技開始。選手たちは、さわやかな風が吹き抜ける三好池で、勝利を目指して懸命にパドルをこいでいました。

ワールドカップに負けない熱い戦い

日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会 東海大会

日本の将来を担う15歳以下の少年たちのサッカー技術の向上と健全な心身の育成を図るとともに、クラブチームの普及と発展を目的として毎年行われる日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会。東海4県のクラブチームが、全国大会への切符を懸けて熱戦を繰り広げました。7月13日に決勝戦が行われた旭グラウンドでは、昨年この大会を制した清水エスパルスジュニアユースと名古屋グランパス三好FC、グランパスU15などの地元勢を破って大会初優勝を目指すJFAアカデミー福島が対戦。試合では、攻守で清水エスパルスジュニアユースを圧倒したJFAアカデミー福島が、フリーキックからの鮮やかなゴールを決めるなど勝利を飾り、東海4県の頂点に輝きました。

歩行者も気を付けましょう

夏の交通安全県民運動店頭広報活動

7月11日から20日までの10日間、県下一斉に実施される夏の交通安全県民運動。その一環として、交通安全を呼び掛ける店頭広報活動が7月14日、ベイシア三好店で行われました。この日は、みよし市交通委員、みよし市交通指導員、市役所防災安全課の職員およそ30人が参加。「交通安全に気を付けましょう」「車に乗るときはシートベルトをしましょう」などと買い物客に声を掛けながら、店の入り口で交通安全を呼び掛けるロゴの入ったPR品を笑顔で手渡していました。なお、市内では交通事故により平成25年度中に2人、平成26年度は4月から7月までに1人の尊い命が失われています。

土別市との友好の架け橋

小学生土別市派遣団結団式

友好都市提携を結んでいる北海道土別市を訪れ、普段生活しているみよし市とは全く違う自然や文化に触れ、土別市の皆さんとの交流を通して視野を広げてもらおうと毎年行われている小学生土別市派遣。市内8小学校の5･6年生児童の中から選ばれた32人が出席して7月19日、市役所で小学生土別市派遣団結団式が行われました。7月22日から25日までの4日間、土別市の小学生との交流や羊舎(ひつじしゃ)･農場の見学などさまざまな体験を通して、児童たちが自分で考えたテーマについて学びます。初めに加藤志津香(かとうしずか)教育委員会委員長が「土別市の素晴らしさに触れるとともに、みよし市の素晴らしさも伝えてきてください」とあいさつ。その後全員が、農作物や羊などの調査や境川と天塩川(てしおがわ)にすむ生物の違いなど派遣先で学びたいテーマや抱負を発表し、みよし市では味わえない貴重な体験への期待に胸を膨らませていました。

4つの大会新記録が誕生

小学校水泳大会

待ちに待った夏休みの初日となる7月19日、南部小学校でみよし市小学校水泳大会が行われました。これは、水泳競技を通じて自己の記録に挑戦するとともに、市内の小学生同士の交流を深めてもらおうと毎年行われるもの。市内8小学校の4年生から6年生の代表児童およそ130人が参加しました。開会式では、三好丘小学校の家原元暉(いえはらもとき)くんと中川未琴(なかがわみこと)さんが「今まで努力を積み重ねてきた自分自身を信じて、自己ベストを目指して泳ぎ抜くことを誓います」と選手宣誓。その後、選手たちはプールに移動して男女別・種目別にそれぞれ分かれ、プールサイドに詰め掛けた大勢の保護者や仲間、先生の大きな声援を受けながら、勝利や自己ベストなどそれぞれの目標に向かって最後まで泳ぎ切っていました。

きらめく青春の汗

全国高等学校総合体育大会・全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会出場選手激励会

7月26日から8月20日まで、南関東(東京都・千葉県・神奈川県・山梨県)で開催される平成26年度全国高等学校総合体育大会と、7月26日から31日まで広島県で開催される平成26年度(第52回)全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会に出場する選手の激励会が7月23日、市役所で行われました。この日出席した12人の選手に、小野田賢治(おのだけんじ)市長は「皆さんが全国大会に出場することで、みよしのまちに活気が出ると思います。大会では練習の成果を発揮していただくとともに、全国から集まった選手との交流も深めてきてください」と激励。続いて、選手たちは一人一人大会への思いや抱負を語りました。中でも、カヌー競技に出場する県立三好高等学校の法村未紗来(のりむらみさき)さんは「今年で最後のインターハイになるので、6位入賞を目指してもっと練習を頑張ります」と目標を語り、大会での活躍を誓いました。